

板野中学校 同和教育だより

MY SKY No. 9

マイ・スカイ

2000年9月5日(毎月第1・第3火曜日きまぐれ)発行

発行者

編集・文責  
甞吉成正士  
嗣次本知己

## ◇みなさんは「識字問題」って知ってましたか？

みなさんは「識字問題」って聞いたことがありますか？分かりにくい人のために説明をしますね。

みなさんがもし、字を読んだり書けなかったとしたらどうでしょうか？教科書を開けてもまったくチンプンカンプン。ノートをとろうと思っても、黒板の字が読めない。こう言ってしまうと、「ラッキー！」と思う人がいるかもしれませんが、好きなマンガや雑誌が読めなくなったらどうでしょうか？「名前と住所を書いてください。」と言われたときに書けないとしたらどうでしょうか……？

みなさんには嘘のような話かもしれませんが、例えば、家の家計を助けるために働くことが優先された子どもたち。学校でいじめにあった子どもたち。外国から日本にやってきた子どもたち。外国人として日本で生まれた子どもたち。など、さまざまな理由で学校に行けずに文字を学べなかった子どもや大人が、日本にも実はたくさんいるのです。そして世界を見渡したとき、そんな人々は「億」の単位で生きてるんです。

ところが、今の社会で字を知らないということは、致命的なことなんです。日常生活で不利益を被ることがたくさんあるのです。日常的でない生活の場合は、特に不利だと言ってもらいましょう。そんな社会の中で、人権が侵されるのは当然です。しかし、人権が侵されていいわけがないのも当然です。

そこで、毎年9月8日を「国際識字デー」として、日本はもとより国際的に「識字問題」に関心をもってもらい、他人事ではなく、自分の問題として「字を学ぶ」大切さを知ってもらおうということなんです。

狭山事件なんかも、部落差別によって文字を奪われたため、石川さんは警察の罠にどんどんはまって行ってしまったんですよ。

私も以前、外国に行ったとき、本当に困ったものです。英語が多少できたって、ギリシャの田舎町なんか行くと、全然会話できないんですよ。当然町の看板に書いてある文字は、





全国中学生人権作文コンテスト受賞作品

平成11年度  
法務省  
全国中学生人権作文  
コンテスト中央大会

日本放送協会  
会長賞受賞作品

”  
違  
い  
“

神奈川県横浜市立用和中学校 3年

石川 綾子

「差別・いじめはなぜ起きるのだろうか。」

先日、社会の授業で映画「橋のない川」を見ました。この映画は、明治末から大正時代にかけて大和盆地を舞台に、理由なき差別に苦しみ、強く生きようとした部落民の話です。映画の中で、ある少女が、部落民の少年の手を握る場面がありました。微笑ましいシーンかと思っただ私の心は、すぐにスタスタに裏切られてしまいました。実は、それは暗くなると部落民の血が本当に冷たくなるのかを、少女が確かめる場面だったのです。人間とはなんと感か生き物なのでしょう。

私は、これと似た話を聞いた昔、耳にした事があります。そして、今と同じような切ない気持ちになった事を覚えています。それは、私がイギリスにいた頃の事です。私の英語の先生スーザンはユダヤ人でした。そのスーザンはある日、私に悲しい顔をし、話してくれました。そう、七十二歳で数日前に亡くなったという先生のお父さんの

話です。彼が若い頃、仲の良いドイツの友人に「頭を見せてくれないか。」と頼まれ、見せたところ、髪の毛をかき分け何かを探していたそうです。そして、

「角なんか生えていないじゃないか。」と言われたそうです。スーザンは、涙を浮かべながら、「ユダヤ人には角が生えている」と、本当に信じられていた、そのような時代もあったのよ。」

と、私に訴えるように話してくれました。角があるのだ、血が冷たいだの常識的に考えれば分かるはずですが、し、長年の偏見によって人々は、このように、ありもしない事を信じるようになってしまっているのでしょうか。かつて日本でも、朝鮮の人々に人間として、してはいけない事を随分してきました。在日韓国・朝鮮人の人々は、いじめに合わない為自分が朝鮮人である事をひた隠しにし、名前は通名(日本名)にし、言葉も母国語は捨て、日本語を話すよう努めていたそうです。それでも、もし朝鮮人だと知られると、ひどい差別・いじめに合っていました。私は、何だか日本人として恥ずかしく思います。私は、イギリスで日本人だからといって、差別やいじめにあった事はありませんでした。近所の人や学校の先生、友人にいつも

「アヤコ!アヤコ!」と呼ばれ、とても良くしてもらいました。しかしそんな中、私は幼いながら、「イギリスのみんなは、私を通して日本という国を見ているのかもしれない。」と、心のどこかでいつも感じていました。そして私は、異国イギリスで「日本人・石川綾子」として恥ずかしくない行動をとろうと、いつの間にか心がけられてきました。そんな私を、イギリスのみんなは受け入れてくれました。それに反し、在日韓国・朝鮮人の方々が本名を隠し、日本人の振りをしなくてはならなかったという事は、どれほど屈辱的な事だったでしょう。私にはその辛さが心の底から分かります。私たち人間は、どんな形であっても差別・いじめをしてはいけないのです。

異国で、自然に愛国心を養う事のできた私にとって、帰国後思ってもみない事が起きました。いじめです。私は、当時周りの女の子たちと違うという理由で「いじめ」に合いました。こんな事だと思いましたが本当です。言葉遣い、仕草、服装、全てが日本の女子と違っていたので

しよう。その為、上ばきを隠されたり、虫を入られたり、私が書いたものをグシャグシャに塗りつぶされたりしました。一番辛かったのは、みんなに無視され、仲間外れにされた事です。そして、私は頑張ってみんなと同じように男らしい服装や言葉遣いにし、今風の丸い文字を練習しました。そして、みんなと同じ意見を言い、一生懸命合わせました。でも、今思うとあの頃は「自分」というものがありました。自分の気持ちも無くしてしまいました。そんな自分がすこく嫌で、中学生になってからの私の目標は、「自分をもつこと」でした。今ではだいたい私の中に「石川綾子」がいます。

民族の違い、宗教の違い、肌の色、貧富など色々な「違い」によって差別が生まれます。しかし、人はみんな必ず何かが違うのです。でも、みんな同じ生き物なのです。そして、違うから楽しいし、世界も発展するのです。みんな同じだったら、人間ではなくロボットでも良くなってしまう。なぜ自分が自分であってはいけないのか。まずはここから考えてみたいと思います。そして、地球上の全ての人々が、過去を反省し、それぞれの「違い」を楽しみ、尊重し、認め合う事によって、差別・いじめのないすてきな二十一世紀がやってくると思います。



石川 綾子さん

●受賞の感想●

「11月にオーストラリアに転校したので、日本で担任の先生から受賞のメールをもらいましたが、信じられなくて何かいじめを感じていました。」

◇「<sup>ちが</sup>“違い”神奈川県横浜市立川和中学校3年石川綾子」

夏休み中に届いたパンフレットに掲載されていた作文です。何に<sup>おどろ</sup>驚いたかって、神奈川県にも部落問題に関心を持って、学校で「橋のない川」を見せるところがあるということに驚きました。日本全国いろんな所で取り組まれているんですね。

彼女の場合は、部落問題を、ユダヤ人や在日韓国・朝鮮人の問題と重ねて、自分の生活や生き方にまで発展させて作文を書いているわけですが、<sup>こくさいかんかくゆた</sup>国際感覚豊かでいいですね。このように、<sup>してん</sup>広い視点で<sup>ものごと</sup>物事を見ようとしないと、どうしても<sup>かた</sup>偏った考えになるのかもしれない。みなさんは、この作文を読んで、どう感じました？



「夏の思い出」みなさんにはどんな思い出ができましたか？

私はこの夏も、忘れられない思い出がたくさんできました。<sup>しごとじょう</sup>仕事上、同和教育・人権教育関係の思い出が多くなるのですが、中でも生徒のみなさんと関わった思い出は、<sup>かくべつ</sup>格別なものがあります。そんな<sup>きかい</sup>機会を得られる今の仕事が、私は本当に大好きです。大きく分けると、次の三つがあります。

●第5回部落解放徳島県学習会中学生集会(8月3日10:00～15:40 郷土文化会館)

大会スローガン「逃げない未来、勝ち取る未来」

▲板野町学習会小中合同夏季一泊研修(8月17日～18日 YMCA阿南国際海洋センター)

◆部落解放第32回全国高校生集会・浜田三中交流会(8月23日・24日 アステイクシマ他)

大会スローガン「絶やしてはいけない、解放の炎」

これらのことについては、まだまとめられてないので、次号のお楽しみということにしておきます。がんばってまとめようと思いますので、楽しみにしてくださいね！

また、次号が出るまでの間に板中文化祭が行われます。この<sup>きかい</sup>機会に、文化祭を通じて、同和教育の大切にしてきた「仲間づくり」に各学級・学年で取り組んでみてください。

なお、板中文化祭の機会に、人権部と生徒会の<sup>ゆうし</sup>有志が中心となって、<sup>げき</sup>劇「SEASONS I」を行います。ラブストーリーですが、そこに部落問題が<sup>お</sup>織り込まれています。果たして<sup>あわ</sup>淡い恋心は、<sup>かい</sup>差別の壁を<sup>くだ</sup>うち砕けるのか?!<sup>はくしん</sup>迫真の演技が見られると思いますので、みなさん、どうぞご期待ください!!